

令和6年度 久山町立久山中学校 学校評価【最終】											
【久山町教育委員会の基本目標】 社会を生き抜く子どもを育てる町。学び合いやスポーツの機会を広げる町。町の文化を守り、育てる町。互いに認め合う町。											
【学校教育目標】 ふるさと久山を愛し、広い視野をもって、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成						【本年度の重点目標】 自己実現を目指し、主体的・協働的に活動する生徒の育成					
重点	評価項目	具体的な評価項目	学校自己評価			関係者評価	学校自己評価による成果○と課題●			学校関係者評価委員のご意見	
			前回	最終	評定	総合評価	評定				
指導の重点	「判断・決定・責任」	①教科の授業における「学びのスタイル」を浸透させ、全教職員で「判断・決定・責任」「人によりよく関わる力」「自分を高める力」を育成する場面を生み出すことができていたか。	3.10	3.14				○示範授業をはじめ、全職員で学びを進める取組があり、授業改善に努めている。一人一回公開授業の実施で、久山スタイルを活用した課題解決的な授業実践が行われている。 ●夏休みに考えた授業を実施する前に2回目のアンケートが行われたので結果に反映されたか分からな い。全職員の意識が揃っていないため、絶対にこうするという意識が感じられない。特にここは大切に しましょうという共通理解も薄かった。		○定期考査前の計画表は、生徒自ら計画 立てられるよう工夫されている。 ○成果と課題を分析し、今後さらに伸ば していけるよう改善内容を整理しながら 引き続き取り組んでほしい。 ○授業が工夫され、生徒が生き生きと活 動している。	
		②道徳科授業における葛藤場面、討論場面の設定し、全教職員で「判断・決定・責任」「人によりよく関わる力」「自分を高める力」を育成する場面を生み出すことができていたか。	3.10	3.45				○必ず班で意見交換の場を設定し、他人の意見によって自分の意見が付加、修正、強化された場面が あった。学年で指導案審議したり、実践交流会に向けてローテーションでプレ授業したりと全職員で取 り組むことができた。 ●日頃から議論する場の設定や葛藤場面での発問を意識して題材選定や授業構想を行う必要がある。自 己の変容について明確に設定できれば、対話活動を目的をもって仕組むことができる。		○生徒の姿や掲示物から、落ち着いて学 習できていることが感じられる。身だ しなみ検討も主体的に取り組んでおり、「 判断・決定・責任」が達成できていると 感じられる。 ○生徒の実態把握と分析が鋭く、重点目 標の達成に向けた取組が実施されてい る。文化発表会の評価が高いのが成果 である。	
		③特別活動、学校行事における異学年交流の場を活用し、全教職員で「判断・決定・責任」「人によりよく関わる力」「自分を高める力」を育成する場面を生み出すことができていたか。	3.29	3.45	3.40	A	3.88	○学校行事や生徒会活動を通して異学年交流の場の的確に設定され、伝統として引継がれている。合唱 コンクールにおいて、学級、学年、ブロックと練習し、人によりよく関わったり、人のよいところを取り 入れ、自分を高めることにつながった。		○生徒自らが企画運営する活動が実施さ れている。 ○校外活動の事前準備、体験、報告の機 会が充実している。自ら判断し責任を もって行動することにつながっている。 ○これまでの良い取組を継承している。 ディスカバー久山を発展させたり福間中 から学んだりすることを期待する。 ○ディスカバー久山は大変良い取組であ る。動画編集は中学校独自の発信で、小 学校から表現スキルが高まると言える。 ○教科書から学ぶことだけではない学び があり、感謝している。 ●将来やりたいことや夢・目標につい て、家庭と連携しながら子供が考え、見 いだせるような教育活動をつくってほし い。	
		④身だしなみ検討の取組における話し合い活動を活用し、全教職員で「判断・決定・責任」「人によりよく関わる力」「自分を高める力」を育成する場面を生み出すことができていたか。	3.19	3.59				○生徒が自分事として考えることができていた。生徒の考えが反映されるような取組になった。身だし なみの学級討議で、「判断・決定・責任」のもと、自分の考えや質問を出し、話し合うことができた。			
		⑤総合的な学習の時間を中心に地域と連携し、全教職員で「判断・決定・責任」「人によりよく関わる力」「自分を高める力」を育成する場面を生み出すことができていたか。	3.19	3.36				○地域や校外の方々との効果的な連携ができていた。職業体験等を通して地域との関わりを意識させるこ とができた。地域の事業者の協力があってこそだと感じた。 ●学年によっては実施が厳しいことがある。			
経営の重点1	生徒科主体指導力の向上	①生徒に判断・決定を迫る授業構想力を身に付ける仕組みが整備され、全教職員で授業を実践できていたか。	3.10	3.23				○知識偏重からの脱却ができつつある。学級討議を仕組むことで、生徒自身が判断・決定をする場面を 創出できている。自己の考えをまとめ、他者と交流する活動が展開中に盛り込まれてきた。 ●工夫された研修が行われているが、他教科の授業を見る機会がなかなかないので判断はできない。		○教師間で道徳の指導案審議すること で、指導力量が向上している。 ○道徳実践交流会で「考え、議論する」様 子が伝わった。 ○石橋先生の授業は授業改善のモデルだ と感じた。めあて達成の方法が複数あ り、自己選択、自己決定の場があること で、生徒が主体的に学んでいる姿が見 えた。他の教科に広げてほしい。 ○授業改善に関する教師間のコミュニ ケーションが大切だと感じた。 ○掲示物の充実、美術の授業の様子か ら、知識偏重の授業から脱却できている と感じた。 ○教員の生徒理解の姿、環境整備に取 組む姿から、課題予防的生徒指導力の 向上を感じることができる。 ●授業改善は今後の課題である。授業技 術という観点から追究する価値がある。	
		②生徒の自己指導能力獲得を支援する課題予防的な生徒指導力を身に付ける仕組みが整備され、全教職員で指導を実践できていたか。	3.14	3.26	3.25	A		●工夫された研修が行われているが、全職員の共通理解のもと実践できているかは判断はできない。主 体的に身だしなみに関する校則を決めることはできたが、生徒指導力を身に付ける仕組みが整うかどう かはこれからの課題だ。			
		③授業や生徒指導の実践が有効であったかを検証する仕組みが整備され、全教職員で改善が行われていたか。	3.05	3.18				○授業アンケート、生活学習アンケートで取組の検証ができる仕組みが整っている。 ●授業研修等で、事後の協議会が設定され、実施できたかは不十分だった。生徒指導を検証する仕組み が不十分である。			
経営の重点2	責任感の向上	①職員が企画力、提案力、遂行力を高めるための仕組みが整備され、全教職員が重点目標の達成に向けて業務を行うことができていたか。	3.05	3.13				○全員で具現化に向けた努力ができています。 ●企画内容が実態に見合っていない。提案がおりてこないことがある。各主任主事からの提案は、しっ かりできているが、検証する事後の部会等が必要である。 ●説明が不十分である。学期に一度程度再確認の時間が確保できると良い。		○生徒指導委員会の内容を改め、具体的 な支援の方向性を決める形にしたこと は、会の目的からも大切だと考える。 ○職員会議をどう設定するかは在任中も 課題だった。「働き方」をどう捉えるかも 含めて共通理解と検討が必要である。 ○限られた時間で役割を明確にし、創意 工夫しながら行事等成功させている。各 教員間の意見交流が機能していると推察 できる。 ○教室環境や授業の様子から、校長をは じめ全教員が工夫改善しながら実践し ていることが伝わる。 ○終礼の時間の見直し、週時程の見直し はこれまで未実施の課題だったことか ら、価値がある取組だと思う。	
		②学校経営要綱に示された目標等について説明の機会が確保され、全教職員が理解することができていたか。	3.24	3.35	3.26	A		●「現在取組が行われているのを知らなかった」という声があったので効果的にはなり得ていない。 ○理解しようという職員の意識が高まってきたように感じる。 ○諸会議の効率化の実践等により、意識改革に繋がっている。 ○前日や当日の変更等が少なくなった。 ○週行事予定の周知が機能し始めていると感じている。 ○校長の提案で意識していると感じる。 ○職員会議や終礼を利用しての研修など効率的に、効果的に実施できていると思います。学年会議での 会議が計画的であれば、なお推進されたいと思います。			
		③職員会議、特別委員会、学年会議、終礼、職員研修等が効果的に機能し、全教員が目的遂行のために内容理解や連絡調整に努めることができていたか。	3.04	3.36			3.88				
経営の重点3	自己研鑽力の育成	①自己の課題を分析し、それに応じた研修を通して解決する仕組みが整備され、全教職員が自己研鑽力を高めることができていた。	3.10	3.30				○多くの先生がキャリアアップに向け校外研修に参加している。工夫された校内研修が行われており、 それぞれが努力している。 ●担任は研修に出ることが難しい。長期休業に個人的に研修を受けたい。		○働き方改革は意識改革という意見がポ イント。どのように教職員の共通理解を 図るかが難しいところだと考える。 ○研修を選択制相互研修にし、改革さ れているところが良いと考える。効果的 である。 ○教職員が自ら課題を発見し、解決に向 かう仕組みとなっているところが良い。 校長が見通しを示すことで、教職員が 安心して自己を高めていることにつな げていく。	
		②相互に必要な知識・技能等について交流する環境が整備され、全教職員がコミュニケーション力を発揮することができていたか。	3.29	3.26	3.20	A		○組織的ではないが、交流しようとする雰囲気は育っている。校内講師研修を通して、小グループで学 びを深める機会が設けられた。校内講師研修、一人一回授業研修で研鑽する機会が確保されている。 ●場の設定が不十分である。		○役割を与えると人は成長する。若年教 員にも人に教える経験をさせてほしい。 町の研究とも連携して充実させてほ しい。 ●先生方の負担が増えていないか心配 である。本来の教員の業務や取組がで きるように負担を少なくしてほしい。	
		③働き方改革の取組が機能し、全教職員が業務の仕方を工夫し、自己研鑽の時間を確保することができていたか。	2.96	3.16				●業務の仕方の工夫は各自の努力目標だと考える。これまでどおりの働き方を継続している教職員がい るのでは全職員による取組になり得ないのではないかと。 ●まだ定着していないと感じている。 ○実施しないかわからないが、取組の中で改善しつつ機能化できると考える。 ○職員の退校時間がかなり早くなっている。 ○部活動の休養日等の取組や意識改革、業務の平準化の具体的な策が練られており、大きく変わること ができると思います。計画を実践して行けるように、勤務すると良いと思います。			
経営の重点4	育心・安全・安心・コミュニケーション力の育成	①生徒や第三者の意見を生かして教育環境等の課題を見いだす取組や仕組みが整備され、全教職員で危機管理に努めることができていたか。	3.10	3.22				○生徒指導委員会でのケース会議、生徒指導事案が発生した場面でのケース会議等有機的に機能してい る部分もある。 ●環境整備が不十分であることで様々な生徒指導上の問題点がある。情報共有の報連相が十分でない 場面がある。 ●特別支援教育は担当者だけがするものという認識が強い。特別支援学級を軽視する発言があったこと が残念である。 ●環境整備のチェックを月に一度実施しているが、チェック表の提出もなく改善されないままのところ がある。危機管理に無関心な状況があり、安全な安心できる教育環境とは言えない。安全に活動させよ うとする教員の意識は高いが、施設の危険箇所の修繕等が進んでいない。		○自死予防スクリーニングで困っている 生徒を見いだし支援できることは良い。 生徒の心を見る化し見守る体制を整 えていることが素晴らしい。生徒の心の 正確な把握につながり、専門家の支 援を受けることができる。今後も継続 して取り組んでほしい。 ○「サポート委員会」の取組は効果があ ると思いますが。自校でも取り入れたい。 ○掲示物がさらに充実している。学習の 積み上げが見えとともに、主体性の 向上につながる。	
		②特別支援教育や人権教育の視点を取り入れた取組や仕組みが整備され、全教職員で教育環境の向上に努めることができていたか。	3.14	3.26	3.30	A					
		③安心・安全な教育環境に向けた取組を検証する機会が確保され、全教職員で改善に努めることができていたか。	3.10	3.00							
経営の重点5	保幼小連携・地域・家庭・人間関係形成能力の向上	①地域、保護者、小学校へ生徒の実態（良さや課題）や学校の取組を発信する機会が確保され、全教職員が共有に努めることができていたか。	3.24	3.52				●保幼小連携を学校側だけで進めるのは難しい。地教委の主導性も必要である。		○久山町は地域行事が多く、地域から中 学校の部活動やボランティアに協力依 頼があれば生徒自ら応じる連携ができ ている。 ●地域のボランティアの内容、趣旨をど のようにな生徒に伝えるかを考えてほ しい。 ○ディスカバー久山のチャレンジは素晴 らしい。小学校の学びの上に積み上が っていくよう連携をさらに進めてほし い。 ○現在も十分連携できている。更なる 連携に期待します。 ○地域を巻き込んだ防災教育は以前も やってみたと考えていた。実践に期 待します。 ○まるごと体験は、児童にとってあこ がれとなる中学校の姿を見る機会であ る。ディスカバー久山の取組で連携が一 層強まった。	
		②地域や家庭の人的・物的資源が全教職員間で共有され、積極的な活用が努めることができていたか。	3.19	3.35	3.45	A	3.75	○家庭訪問等家庭と密に連絡できている。 ●自分自身が地域のリソースが把握できていない。			
		③地域、家庭、小学校と共に交流し、活動する機会が整備され、全教職員が生徒の人間関係形成力の向上に向けて活用することができていたか。	3.24	3.48				○小学校と連携が十分できている。			

＜評定（4件法）の1～4の基準＞
4「取組や仕組みが効果に繋がっている」、3「取組や仕組みが機能しつつある」、
2「取組や仕組みが不十分である」、1「取組や仕組みが全く効果がない」

一次評価 6月26日実施
二次評価 10月30日実施
最終評価 1月29日実施

評価基準
A 3、2以上
B 2、8以上3、2未満
C 2、0以上2、8未満
D 2未満